

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

プレス工業株式会社 尾道工場

(2) 事業所の所在地

広島県尾道市高須町大山田21050番地1

(3) 業種

自動車部分品・附属品製造業(細分類番号;3113)

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和 2年度を基準年度とし、令和 3年度から令和 7年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

<ビジョン>

プレス工業は、かけがえのない地球を大切にするため、企業活動のあらゆる分野において、環境にやさしい「ものづくり」を推進し、持続可能で豊かな社会の発展に貢献します。

<ミッション>

ものづくり企業としての誇りを持ち、地球環境を大切に、社会と共生することを経営の重要課題の一つとして認識しながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、常に環境パフォーマンスの向上を目指します。

<バリュー>

1.環境関連法規等の遵守

環境関連法規制やステークホルダーとの約束ごとを守り、信頼される企業であり続けます。

特に水質汚染に関する瀬戸内海環境保全特別措置法を遵守します。

2.二酸化炭素排出量削減の推進

生産工法の改善、業務の効率化、廃棄物の再資源化等を通じた、省資源、省エネルギー化により二酸化炭素排出量の削減を推進します。

3.環境リスクの低減

化学物質等の環境負荷物質の使用量、排出量の削減や、騒音、振動、臭気による環境リスクの低減を推進します。

4.地域社会との共生

地球社会の環境美化を推進し、良き企業市民として強制していきます。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和 2年度	令和 3年度
二酸化炭素	7,536	7,454

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

付加価値(百万円)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和 2年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 7年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	7,536	5,627	1.34	5.2	7,144	5,627	1.27
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算k1)	-	-	0.5985	5.2	-	-	0.5674
目標設定の考え方	令和2年実績を基準とし、付加価値比当たり毎年1%以上削減又は改善する。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	電力量削減	180 ton-CO ₂ /年	冷却水ポンプのインバータ化・小型化 高効率化・自動化及び運転時間短縮
2	電力量削減	162 ton-CO ₂ /年	照明機器のLED化と配置適正化による 灯数削減
3	電力量削減	17 ton-CO ₂ /年	工場各所へ点在するエアドライヤの 運転/停止自動化
4	LPG消費設備	5 ton-CO ₂ /年	供給蒸気圧見直し 0.65Mpa⇒0.58Mpa

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1	クリーン電力継続購入(令和4年度より1,800千kwh/年)	938 ton-CO ₂ /年
2		
3		

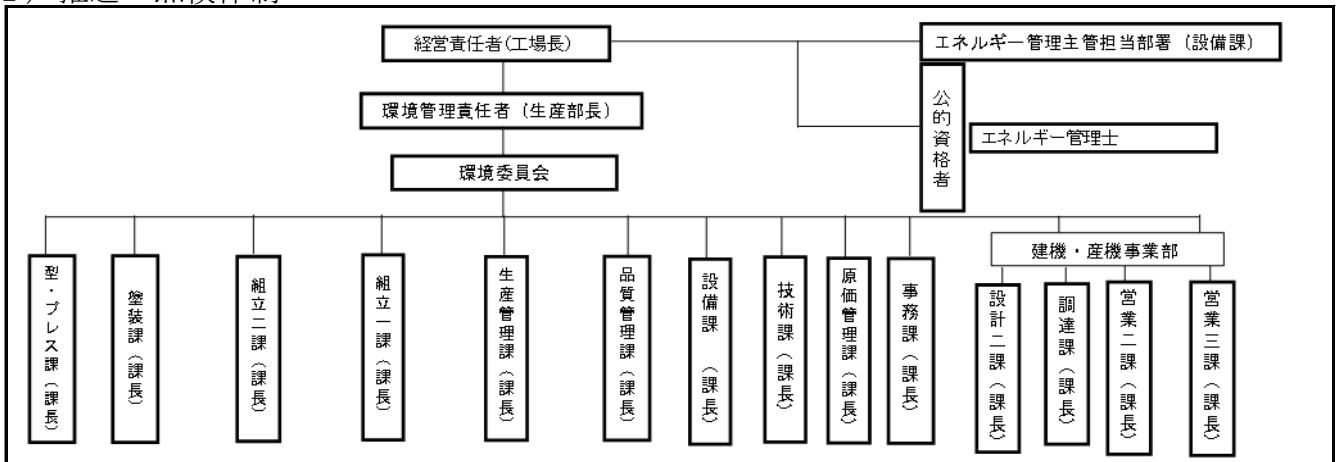
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物排出量削減	原単位当たり1%削減。	・ 原材料の節約（設計・加工） ・ 消耗品の寿命延命。 ・ 廃油排出量の削減。
2	PRTR削減	原単位当たり5%削減。	・ 塗料色変え回数削減。 ・ 吐出量の適正化と回送率低減。
3	排水含有部室管理	排水処理規制値遵守	・ COD負荷量規制値遵守。 ・ 全窒素負荷量規制値遵守。 ・ 全リン負荷量規制値遵守。

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

ISO14001環境マネジメントシステムに基づき1回/3ヶ月、社内環境委員会で実績と改善報告を実施し、年度変わりに目標の見直しを実施する。

(3) 計画書等の公表

ISO14001環境マネジメントシステムに基づき公表。

Vertical line on the left side of the page.

